氏名	湯　本　晃　久
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博甲第　2848　号
学位授与の日付	平成１７年３月２５日
学位授与の要件	医学研究科内科系循環器内科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	Hepatocyte Growth Factor Gene Therapy Reduces Ventricular Arrhythmia in Animal Models of Myocardial Ischemia （肝細胞増殖因子の遺伝子治療は心筋虚血の動物モデルにおいて心室性不整脈を抑制する）
論文審査委員	教授　佐野俊二　教授　梶谷文彦　助教授　横山正尚

学位論文内容の要旨

我々は最近、肝細胞増殖因子の遺伝子治療は血管新生を促し心筋虚血時の心機能を改善する可能性示唆されることを報告した。今回、我々はこの遺伝子治療が心室性不整脈を抑制する可能性があると推察し、肝細胞増殖因子の抗不整脈効果についてラットの急性および陳旧性心筋梗塞モデルを用いて検討した。心筋虚血は左前下降枝を結紮して誘発した。肝細胞増殖因子遺伝子は仙台ウイルスに覆われたリポソームを使用し直接心筋内に注入し遺伝子導入を行った。１４日後に、電気生理学的検討を行い、心室性不整脈を誘発し、抗不整脈効果の程度を検討した。肝細胞増殖因子遺伝子治療群において陳旧性心筋梗塞では心室細動持続時間の短縮，急性心筋梗塞での心室細動閾値の上昇を認めた。組織学的検討では遺伝子導入群において心筋梗塞の境界域に新生血管の増生を認めた。これらの事から肝細胞増殖因子の遺伝子導入において抗不整脈効果を有すことが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、肝細胞増殖因子遺伝子の直接心筋内注入により、心室細動持続時間の短縮、心室細動閾値の上昇を認め、肝細胞増殖因子の遺伝子導入が抗不整脈効果を有することを認めた価値ある業績である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。